

おーい図書館

No.131

発行 代
おーい図書館
代表
青木 和子
松本市牧の原 104-416
TEL 047-311-0886

「おーい図書館」15年の歩み

刊行の喜び

伊藤 和子

自分達の住む町に誇りの持てる図書館が欲しい、というささやかな願いを持つ人達が集って「おーい図書館」という市民グループを立ち上げたのは1993年のことでした。私は2、3年遅れて入会したのですが、その後いろいろなお話がありまして、特に新しい図書館用地として期待した相模台の国有地が「市にはその金が無い」という理由で聖徳大に売られてしまった時は、もう会もお終いか？と諦めかけたのに、女性はしぶとい!!懲

りもせず、その後市への提言や他市の図書館を見学等と活動を続け、参加した人達の感想文を会報として発行したりしてきました。今回、その初回から15年分を、一冊の本としてまとめた訳です。

歴史というものは記録されてはじめて残るものだから、本という形にしておいて正解だったと思います。この一冊は、この時代の貴重な生活史にもなるでしょう。

しかし、本を作るといふ事がどんなに大変な作業か、という事を今回初めて知りました。私のように何のお手伝いもできなかった者から見ても、「ほ

んとにできるの？」と、ハウハウ危ぶむばかりでしたから。何度も何度も集って、索引を作ったり校正したりして下さった方達のご苦勞に対して、頭が下がる思いです。

途中、青木さんには大きな悲しみにも出逢われたのに、最後までのげなかつたその責任感にも心を打たれました。

本当にいろいろなお話があったこの2008年という年は、忘れ得ない年になりそうです。

勿論、プロ中のプロである菅世田さんと武田和さんの力強い応援があったればこそですが、今まで本など作ったことのない、素人のグループが、よくもまあこんな見事な本を仕上げたものだ、と、初めて実物が現れてきた時、驚いてしまいました。やっとやっと出来上がった御本を一冊一冊心をこめて包装し、我が子のように慈しんで手

瘦して下さった時の青木さんの笑顔が忘れられません。どんなに嬉しかったことでしょうか。

それにしても、松戸にはこんなにも図書館に対して熱い思いを持つた人達が大量いるというのに、行政側の対応の純さはどうでしょう？道路と図書館とどっちが大事ななの？近隣都市に比べても、あまりにもお粗末な現状を恥ずかしいとは思わないの？と、文句の一つも言いたくなります。開会的な町なら、これだけ市民の要望があれば、良い図書館の一つや二つ、とつくに建っているだろうにとひがみたくなりました。11月1日(土)の出版記念会には各会派の市議さん達のご挨拶がございましたから、これからも市政に対して大いに発言して頂きたいと期待しております。

さて、この本について私が特に興味を持ったのは、記念会の席上での常世田さんのお話でした。

「本作りの技術からみても、この本はすごい本ですよ」とおっしゃいました。どんなにすこやかというかと、普通はこれ位の薄い用紙で両面印刷すると透けるものだが、透けてない。そして文面の枠が、裏表のズレが全く無い。新聞記事が縮小されているが、こんな細字でもちゃんとして読める。これ等はインクの量の微妙な配合の結果だろうです。更には、462頁の厚みをピシッと決めた表紙のつけ方に一分の狂いも無い等々。とにかく印刷製本を手掛けて下さった武多和氏の職人としての業のすごさを力説なさいました。

「少ない予算の中で、ちっとも儲かってはいないでしょうが、よくぞここまでやって下さった」という常世田さんの賞賛の言葉が心に沁みました。

「人生意義に感ず」という名

言があります。常世田さん・武多和さん・「おーい図書館」三者の意気がピッタリと合って、この本が出来たのだ！と感動いたしました。

せつかくこんな素晴らしい御本ができたのだから、そのエネルギーをこれからも持続して、最終目的まで達するよう(私の生きているうちには間に合わなくとも)まだまだ頑張らなくては！と思った次第です。

表紙の絵もシャレていて素敵だし、協力して下さったすべての方々に礼が言いたい！ありがとうございます！！と。

(2008年11月24日記)

2008年11月1日(土)の出版記念会には、会員皆様が多数ご参加下さり、とても楽しい時を過ごすことができました。その情景を中野貴子さんが描いて下さりました。楽しい雰囲気をお伝えするこれができれば幸いです。

11月1日
 関係のいとは
 代表あいさつ
 来賓あいさつ
 乾杯
 おらい図書館 本の紹介
 出版記念会
 2008年
 ごあいさつ
 会を交えられた方
 図書館関係者
 本の刊行を世話に
 たった方
 関係のいとは





おーい図書館

—十五年の歩み—

刊行に寄せて

青木和子

私たちが会を立ち上げた1951年、練馬区の文庫活動や児童館活動を続けておられる関日奈子さんから、会報「おーい児童館」を頂きまして、あれやこれやと会名を考えている時でした。

早速ご連絡を差し上げ「おーい」を使わせて頂けるかとお尋ねしたところ、「図書館と児童館では対

象が違うので、どう使って下さい」との快諾を頂き、会名を決定しました。会報も第一号から「おーい図書館」とし、これまで発行してきました。

その後の活動は、この度出版した会報合本にある通りです。

とにかく合本を作りたい、という一念で取り掛かったものの、暗中模索の状態でした。

当初考えていたのは、会報を順番にただただ綴じて自分達で製本するというものでした。ですから、編集委員のような役割も決めずに始めてしまいました。しかし、話し合いを重ねるうちに、本を作るチャンスは何度もある訳ではないのだから、資料としても納得できるものを作り

たいという思いが強くなりました。千葉治さんから「索引をしっかりと作りなさい」等のアドバイスを頂いたことも、大きなきっかけとなりました。(索引がとてむ大切だということは、本が出来上がった今、実感しています。)

ようやく合本づくりに向けての一步を踏み出しましたが、途中思わぬアクシデントに見舞われたりして長い時間を要してしまいました。しかしながら2000年秋、とうとう完成することができました。

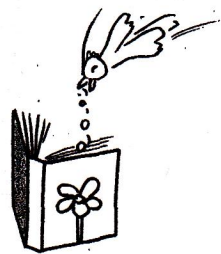
ずぶの素人の集団が、それぞれのできる事を、できる時に、自動的に作業を分担して作り上げたことを、心から喜び合いたいと思います。

何度も修正を重ねて表紙を描いて下さった中野貴子さん。題字の山田明子さん。手書き原稿のパンコン入力は鈴木とき子さん・鎌瀬容子さん。索引づくり等は大久保

ヒロ子さんと青木。校正は野原章子さん・大久保ヒロ子さん・青木。時に応じてのサポーターは西山伶子さん・吉原理絵さん・松原和子さん。定例会に出席の皆さんからは、随時貴重な提言を頂きました。

丁寧なお仕事をしてお下さったヨシダプリントの武夕和伸夫さん。殆どボランティアで本の発送を引き受けて下さったライブラリー・アド・サービスの尾山純一さん。多くの有難いアドバイスを下さった大澤正雄さん・千葉治さん、そして常世田良さん。本当に本当にありがとうございます。

2009年、『おーい図書館』は17年目に入りました。この長い年月の間に、残念ながら鬼籍に入られた方々もおられます。その方達の思いも大切に、今後も活動を続けます。これまでご協力頂いたすべての皆様へ、あらためて御礼を申し上げます。ありがとうございます。ごさいます!!



協力して下さった方および会員

- | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 相田恵子 | 青木和子 | 青木望 | 青木由美子 | 秋津那美子 | 浅井ゆき | 浅山早智子 |
| 安増幸子 | 阿部茂子 | 飯島由美子 | 飯高和子 | 石原修 | 磯野文子 | 磯村光良 |
| 伊藤和子 | 伊藤真理子 | 伊藤吉彦 | 稲田志朗 | 大塚澄江 | 井上玲子 | |
| 今川和子 | 上田素子 | 梅沢みよ子 | 榎本博次 | 大石民子 | | 大石洋子 |
| 大久保ヒロ子 | 大澤通子 | 太田悦子 | 大野美春 | 大橋尚子 | 小笠原和彦 | |
| 小川圭子 | 小倉裕悦 | 尾上眞喜子 | 小山田義夫 | 片岡久明 | 門達子 | 加藤みどり |
| 門脇元子 | 鎌瀬容子 | 亀田栄吉 | 川鍋道子 | 神林成光 | 木岡紀子 | 菊地あい子 |
| 菊地志枝 | 北村直代 | 久々湊靖夫 | 工藤鈴子 | 倉澤千代子 | | 古在路子 |
| 古関とし子 | 小藪美津子 | 児玉雪 | 小林純子 | 小林孝信 | | 坂本由喜子 |
| 佐々木亮二 | 定形卓子 | 佐藤敬子 | 佐藤浩子 | 佐藤昌男 | 佐藤良彌 | 塩崎俊一 |
| 篠沢治子 | 島佳枝 | 島津まさ子 | 庄崎富佐子 | 神惇子 | 末松裕人 | 菅沼樹夫 |
| 菅原育代 | 杉田久美子 | 鈴木和子 | 鈴木とき子 | 隅谷茂子 | | 関美智子 |
| 平淑美 | 高木公明 | 高橋玉枝 | 高橋弘 | 田久保美紗子 | 田澤ヨシエ | 田島由子 |
| 月村光 | 辻文子 | 寺岡郁 | 遠山加奈 | ときわ平幼児教室 | | 常世田良 |
| 戸田照朗 | 長江義子 | 仲神裕子 | 長澤成次 | 中島幸 | 中田京 | 中野貴子 |
| 長野みどり | 長濱和代 | 中村みよ | 中本幸子 | 中山厚 | 名木浩一 | 梨本民子 |
| 西宮香代子 | 西山フク | 西山伶子 | 野原章子 | 野村圭子 | 橋本たき | 東由美 |
| 俵木妙子 | 平川和子 | 平島千恵子 | 廣島美雪 | 福島清隆 | | 藤原孝一 |
| 船橋邦子 | 本郷谷健次 | 牧野美佐子 | 松井綾子 | 松原和子 | | 松村直子 |
| 松山幹彦 | 間部美智子 | 三浦七郎 | 水口旺子 | 水口小百合 | 宮崎智子 | 宮田正宏 |
| 武笠紀子 | 毛利多尋子 | 森口優子 | 山口そのゑ | 山田明子 | 藪崎寿美江 | 湯浅和子 |
| 山中一美 | 山中啓之 | 山本菊代 | 山本千枝子 | 梁・木村眞喜子 | | 渡辺美喜子 |
| 吉田えみ子 | 吉野信次 | 吉原里絵 | 渡辺徳子 | 渡辺則子 | | |

あとがき

私たち「おーい図書館」の一五年の歩みを記録した会報の合本を改めて読み返してみると、実に様々な出来事が、昨日のことのように思い出されます。

すぐにも実現するかと思われた新しい図書館建設は、紆余曲折の末、計画が頓挫したまま、現在に至っています。その間、私たちは理解困難な行政用語と格闘し、何とか理解できた頃には、事態はすでに別な方向へと進んでいるということの繰り返しでした。期待しては肩透かしを食うという思いを、これまで何度味わったことでしょうか。

そのような中で、ともすれば挫けそうになる気持ちを奮い立たせようと、丸山裕一郎さんのビリンバウ演奏、李政美さんの歌、松元ヒロさんの時事コントとパントマイムなどの楽しい企画で元気をいただいた事は、会員共通の素敵な思い出となりました。

いまだき古臭いとの声も聞こえる中で、一貫して手書きの会報を作り続けてきたのは、「温もり」のようなものがほしかったから、と言えるでしょうか。折れ線グラフや円グラフを載せたときは、皆で色塗りをしました。

それもこれも、松戸市に市民のためのよりよい図書館がほしいとの思いがあったからこそ、と思っております。

図書館をめぐる状況は、いま、逆風の中にあるようです。ようやく作り上げたこのささやかな記録が、多少なりともみなさまのご参考になれば幸いです。

本書の刊行に当たって、大澤正雄さん、千葉治さん、常世田良さんには多くの貴重なアドバイスをいただきました。また、印刷製版・製本にあたっては、武多和伸夫さんに大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

二〇〇八年十月

おーい図書館 代表 青木 和子